

関西鉄道桑名仮駅の開業

西 羽 晃

J R 関西本線は関西鉄道(株)として誕生しました。政府が運営する官営鉄道(国鉄) 東海道線が関ヶ原まわりとなり、三重県を通らないので、桑名の諸戸清六が筆頭発起人となり、三重県、滋賀県、京都府から民間人が参加して民営鉄道を開設したのです。桑名からは佐藤義一郎、内山如照、貝塚卯兵衛、二井与吉、下里定吉、岩田彦三郎、員弁から木村誓太郎が発起人になっています。

関西鉄道は東海道本線の草津駅から柘植駅までが明治 23 (1888) 年 2 月 19 日に開通し、同年 12 月 25 日に柘植駅から四日市駅まで開通しました。四日市以北は西富田で反対運動があったりして、工事が遅れましたが、四日市から富田を経て桑名までは明治 27 年 7 月 5 日に開通しました。但し桑名は仮駅で馬道に出来ました。東海道と濃州道(員弁街道)に近い場所でした。現在の近鉄益生駅に近く、北勢線の南あたりに仮駅の痕跡が今でも見られます。



手前の空き地に駅舎があったと思われます。

左の四角いコンクリートの構造物は

当時の信号機の土台だと言われます。

7 月 5 日は四日市駅で開通式典があり、参列者一同が 11 時過ぎの列車に乗って、午前 11 時半に桑名仮駅に到着しました。200 台余りの人力車で船津屋に到着して、ここで開通祝いの宴席が設けられました。四日市の芸者 26 人、桑名の芸者 30 人が関西鉄道の社紋を染めた浴衣を着て接待しました。

開通当時の桑名発の列車は 1 日 6 本で、すべて列車はすべて四日市方面から来て、桑名で折り返し運転でした。当時は柘植から以西の奈良・大阪方面は未開通だったので、4 本が草津行、1 本が亀山経由の津行、1 本が四日市行でした。桑名—四日市間の所要時間は約 24 分ほどかかりました。運賃は桑名—四日市間が下等 9 銭、中等 5 割増、上等 3 倍でした。桑名—草津間は 4 時間近くかかっており、下等運賃は 59 銭でした。

桑名仮駅が出来たので、列車に乗って桑名へ来る旅人が増えたので、七里の渡しの渡しの渡船は新造船 2 隻を投入して、午前 8 時発と午後 2 時半発の 1 日 2 便に

増便されました。東海道本線が開通してからは七里の渡しもさびれていたのが、少し復歸したのでしょう。桑名仮駅を降りた旅人は西矢田からの東海道を歩いたり、人力車に乗って川口の渡船場に行ったようです。